

## 2016（平成28）年度事業報告

### 1. 教育交流・派遣事業

①5カ年計画となる「宋慶齡基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」の2年目として取り組みを進めました。8月22日（月）に、基金会・東平県教育局と共催で、「第1回日中音楽教育交流会」を開催しました。交流会へは、日本から2名の音楽教育実践者＝現場教師（静岡県公立小学校の校長・主幹教諭）を含む6名を派遣しました。中国側からは、泰安市東平県小中学校の音楽教師40名と、教育局及び実験学校の職員20名が参加し、日中合わせて70名ほどで音楽教育の実践交流ができました。日中相互に、音楽教育のとらえ方・目標そして具体的な音楽教育実践について発表し、質疑応答等をとおして交流を深めました。音楽教育の相互理解という意味でも、また、実践交流を通して大いに学び合うという側面からも、大いに成果があったと感じられる「第1回日中音楽教育交流会」でした。

### 2. 教育交流・受入事業

①8月23日（火）に、「第4次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入れに関して、黒田代表理事と中国宋慶齡基金会井副主席が中団宋慶齡基金会（北京）で話し合い、2017（平成29）年度内に実施することを確認しました。「宋慶齡基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」を踏まえ、代表団については、山東省泰安市東平県の教育局・教職員を中心に編成することになりました。そして、日本での「第2回日中音楽教育交流会」の実施を目的とする受け入れ事業として、計画・立案・各方面への取り組みを開始しました。

### 3. 教育交流・支援事業

①「宋慶齡基金会との新たなプロジェクト＝山東省泰安市東平県との教育交流事業」の2年目として、引き続き山東省泰安市東平県への教育支援を行いました。一つには、「第1回日中音楽教育交流会」という形での音楽教育の研修会を、宋慶齡基金会を通して東平県の教育局と打ち合わせる中で実現させました。二つ目としては、東平県教育局の要望を、宋慶齡基金会を通して具体的に把握する中で、東平県下の小学校への楽器等の寄贈を決定しました。今年度教育支援費100万円については、「第1回日中音楽教育交流会」の実施のための諸経費と楽器の購入費に充てることが確認され、8月上旬の協定締結後、宋慶齡基金会を窓口として東平県へ送金しました。

### 4. 教育交流・研究等助成事業

①中国人等外国人日本留学生は、年々増加しているとはいえ、日本を理解し、日本と母国との友好を担える人材の必要性は、今後とも増大していくことと考えられます。なかでも中国から日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していると思われませんが、特に入学初年度は、語学力も十分でなく、学業のみならず生活面でも困難に直面している学生も多いと言われています。こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事

業として今年度で第5回となるホームステイ事業を8月5日（金）から7日（日）の2泊3日の日程で、千葉県で実施しました。最終日のまとめの会での発言の中にも、終了後提出してもらった報告書や感想文を読んでも、このホームステイの取り組みが、留学生・ホストファミリーのどちらにとっても交流・理解・信頼の進展に大いに役立ったことが確認できました。

②教育現場や個人・団体の国際教育交流活動を活発化させ相互理解を深めるための取り組みとして、昨年度始めて実施した「日中教育文化交流シンポジウム」を、第2回として、2月25日（土）に日本教育会館8階会議室で開催しました。今年度は、第2回と言うことで、参加者の定員数を3倍の約80名にし、内容も協会の興石 東顧問の講演を入れるなど工夫しました。日中を中心とする教育文化交流活動を活発化させるための、大きな意味ある取り組みとして「第2回日中教育交流シンポジウム」も成果を上げることが出来たと思います。今年度も 日本語作文コンクールへの取り組みとも関連させる中で、日本と中国の若者の意識に焦点を当てて、両国の歴史性を踏まえた関係認識を考えていくそんなシンポジウムとして実施しました。

③2016年度第12回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国全土の省市区の189校から5190編の応募がありました。今回の日本語作文コンクールのテーマは3つあり、（1）訪日中国人、「爆買い」以外にできること （2）私を変えた、日本語教師の教え（3）あの受賞者は今——先輩に学び、そして超えるには？ でした。その結びつきや影響力が益々進化・発展している日中関係をふまえて、中国の若者ならではの主張や、新鮮な本音がうかがえるような意義のあるテーマが選ばれました。協会はこの事業を後援し、毎年最終審査員に加わり、日本中国国際教育交流協会賞（教育賞）2編を選出しています。本年度の教育賞は、郭可純さんの「『サヨナラ』は言わない」と張凡さんの「浪花恋しぐれ」でした。

## 5. その他の活動

①今年度は理事会を5回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。また2016年5月18日（水）に、2016年度評議員選定委員会を開催しました。

②広報関係では、2017年3月に『会報23号』を発行し、「共生力」（随時刊）は、24（4月）・25（10月）号を発行しました。

③財政確立に向けて、財団創立以来の訪中団等への参加者の名簿を各県の協力を得ながら整理し、一口3,000円の賛助会員を募りました。2016年度は160,000円ほど集まっています。